

節分きて、春立つる

年の瀬、お正月、初えびす・・・と新年の行事が目まぐるしい一月があつという間に過ぎいよいよ二月、節分そして立春を迎えます。

二月三日の『節分』をさかいに、『立春』つまり春が立つのです。立夏・立秋・立冬もあります。なぜ季節のさかいが二月だけ際立っているのか。

季節を分ける節目の中で、二月は古くは一年の始まり、特に世の中のあるれこれやお米作りをはじめとする農事が始動する大切な節目ととらえられていたからです。また季節の変わり目は体調を崩しやすいので気持ちを引き締め用心する起点にしていたのでしょう。

節分にはよく炒って神棚にお供えした大豆を厄除け招福の元気な掛け声とともに家の内外にまき無病息災を願います。豆（まめ）は魔滅（まめツ）に通じ、健康でマメに働くに通じます

炒り豆は固く絞まっているので、当たると大変痛いです。邪（鬼）は大変嫌うとされていますね。

節分に頂く食事は邪気祓いを完結する大切なものです。近年では巻き寿司やちらし寿司、少し先の初午の日にちなんだいなり寿司を準備されるご家庭も多いのではないのでしょうか。神棚とご先祖様の仏前に少量をお供えした後、召し上がると良いでしょう。鬼は外、福は内!!

粟津天満神社